

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.67 2014年5月11日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

「人のあかし」再演、各日満席で終了

2012年の初演で好評だった「人のあかし」が再演されることになり、各方面の協力、関係者の奮闘の結果、4月11日～13日の川崎公演、25日～27日の横浜公演とも、満席で終えることができました。出演者や観客の方々に、感想を寄せていただきました。

「舞台に生きる」ことの難しさ

原 心太郎 (本名: 萩坂 心一)

昨年来、和田さんから『人のあかし』の出演依頼があり、その都度、私の所属劇団や勤務先の条件などを理由に断り続けた。しかし、年が明け、私の周辺状況に若干の変化があり、依頼を受けてみようかと1月末に和田さんと会った。その時まで、私自身は兵隊の役だと思い込んでいたので、副所長「崔」の役だと聞いた時はしばし絶句状態。藤井さんが演じた役を私にできるわけがない。ところが、何を血迷ったか、これもいい勉強になるかもしれないと思い直し、引き受けることにした。

以来、週3日の稽古に参加しつつ、一方で戦犯管理所のリーダー像を模索する日々が続いた。大著『管理所職員の証言』は自分でも購入し、隅から隅まで目を通した。6時間のDVD資料も全て視聴した。頭の中だけはイメージできたが、いかんせん役者経験の乏しい私は、演出の藤井さんの前で緊張し、渡部役の護柔さんの存在感に圧倒され、不慣れな小劇場スペースで演じる不安に苛まれ、稽古中に何度も足がすくんだ。

それでも逃げ出さなかったのは作品の力である。崔の言葉が私を引き上げてくれた。崔の言葉を伝えたいという思いが、私を公演終了まで導いてくれた。もちろん、公演に足を運んでくださるお客様の力は絶大で、前回出演した『チムニー』の時にも感じたが、京浜のお客様はあったかい。公演後の交流会での発言に感動し、とても励まされた。

にもかかわらず、崔の大事な台詞を約10行にわたってすっ飛ばすという大失態を演じてしまった。忘れも

しない4月12日土曜日2時の回、崔が自らの理想を語る場面、たまたまいくつかの条件が重なり、本番中、「よし、今日は今までにない崔を演じてみせるぞ!」と意気込んだ瞬間、すべての台詞が飛び、頭の中は真っ白、夢遊病者のうわごとようなことを口走り、最後は相手役の安原さんに助けってもらった。今思い出しても、全身が凍りつく。作者・演出・音響・照明・役者の皆さん、何よりもその回の110名ほどのお客様に取り返しのつかないことをしてしまった。その晩は、悔しくて情けなくてほとんど眠れなかった。翌日、とにかく和田さんの書いた台詞を誠実にお客様に伝えようと開き直り、横浜公演が終わるまで、丁寧に言葉を伝えていくことを心がけた。

この私の姿勢は、崔という人物を演じきれなかった、舞台の上で生きることができなかったということでもある。これが私の限界だった。でも、今回のことがなければ、中国のこと、撫順のこと、日本の戦争責任のことを深く考えることはなかっただろう。それだけでも、協力出演を引き受けた意味はあると思います、「今の悪戦苦闘がきっと役に立つ時が来る」という崔の台詞を噛み締めている。

京浜協同劇団の皆さん、文化の仲間の皆さん、たくさんの方のことをありがとうございました。



実行したあなた方も自分を振り返って考えてほしい(写真©長坂クニヒロ・以下同)

父のこと

坂原 徹

お祝い事は早く、って事で数えで父の喜寿のお祝いの宴を武蔵中原駅前前の夢庵でやったのが一昨年の夏でしたか、だいぶ苦しそうな感じはあったのですがそれでも集まった孫達にニコニコと楽しそうにしていました。11月には入院して、お正月を越せるかどうか？と何度か、緊急呼び出し家族全員集合また持ち直す、を繰り返し、年が明け、昨年の1月の末に亡くなりました。持ち直して4人部屋に移って、家に帰ってからどうするか？なんて話をはじめた矢先でした。

横浜川崎のコウギョウチタイに何十年も暮らし、埃っぽい建築現場で働いてタバコパカパカ吸って、帰宅してから装置プラン描いて、稽古場行って、タバコの煙もうもうの中で会議して。まあしょうがないよね、って話しました。COPD、慢性閉塞性肺疾患ってやつでした。

今年、一周忌を過ぎ父の満77歳の誕生日の4月1日を過ぎて、京浜の水野さんの訃報を聞きお通夜に行き、今回の芝居を見に来たわけですが、初演のときは父の入院中だったため今回が初見でした。

慣れ親しんだ稽古場に入ると父の描いた最後の舞台が組んであって、開帳場とホリゾンにちょこっと描かれた絵があって、あと箱がいくつか、ああ、これだよなあ、ってちょっと笑ってしまった。リアリズムとメルヘン、私が一言そう評したら、父は怒るでしょうか？ ニヤニヤ笑ってるのでしょうか？

京浜の舞台で印象に残っている舞台といえば、金環のイエス、持つと言う事、あと星の牧場。55年の京浜協働劇団の歴史は私の足跡もいくつかあって、子役でいくつかの舞台を踏ませていただき、音楽で関わらせていただいたものもいくつか。父の組んだ舞台装置に立ちました。

父は岩手で絵を描き芝居をやって、大学に8年通って追い出されて、上京して京浜工業地帯で働いて労働争議やって芝居やって、その合間に結婚して子ども3



真の反省、真の謝罪、真の行動……

人育てた、いそがしい人生でしたね。

痲痺持ちの気難しい一面もありましたが、それでも人が好きで人が集まるのが好きだった、そんな父が舞台装置をつくることを選んだ、分かりやすいですね。

ある詩人は、詩はどこにすんでいるのか？と問われて、埋立地、と答えました。水野さんのお通夜に夜光町の斎場に行ったときにそんなことを思いだしていました。埋立地と舞台って似ていませんか？ やがてそこに人は来る、のです。(文化の仲間会員)



叫び声が聞こえ、苦しむ顔が浮かんでくる

また参加できるならしたい

友常 颯人

聴衆の高校生役をやらせていただきました友常颯人です。役は高校生でしたが春から大学になってしまいました。

さて、1200文字ですよ。自由に書いていいと言われると、何を書けばいいのやら…わからないので思ったことを徒然なるままに書いてみようと思います。「あんまりよいしょしないで悪口もいっぱい書いていいから」とおっしゃって下さったので安心していろいろ書けます。

ではまず最初に、私がなぜこの劇に参加したかを説明させていただきます。私が今回の劇のお話を頂いたのは、私が高校の友達と一緒に晩御飯を食べている時でした。いつものように下ることを知らず毒にも薬にもならない様なバカな話をして笑っていると、ポケットの中に入れていた携帯電話に電話がかかって来ました。画面を見ると知らない番号からでしたが、躊躇うことなく電話に出ると、懐かしい声が聞こえてきました。「あ、友常君？ 久しぶり、内田です。」驚きました。何しろ急にかかって来たものですから。「あ、お久しぶりです！ どうしたんですか？」おそらく声も上ずっていたと思います。すると「ハハハ」と少し笑ってから「ちょっとさ、次やる劇で若い男の子の役があるんだけど友常君やらない？」と言われました。私は友達という気分が良くなっていた事もあり、それ以上

深く聞かず「はい！ やらせていただきます！」と答えてしまいました。これが私が参加した理由です。もちろん作品の内容は何一つ聞いていませんでした。よく同じ協力出演者の方々のお話を聞くと、「初演を見て感動した」や「今の政治に不信感を抱いているから」など素晴らしい理由を語って下さいました。もう私は自分が恥ずかしくて、いたたまれませんでした。顔真っ赤です。でも公演が終わった今は劇の内容や伝えたいこと、伝えなければならないことを（多分）理解しています。理解しているだけじゃダメだという事も。そして声をかけてくださった内田さんにもとても感謝しています。ありがとうございます。

ここまでで約 800 文字ですよ…結構書けましたね。しかし後は何を書けば良いんだろう…そうだせっかく書いていいと言われてるのだから悪口を書こう。悪口というか不満？ですかね。

私が演じさせていただいた聴衆というのは半分観客



抗日分子の摘発

半分役者という役で、とてもお客様との距離が（物理的にも）近く、とても難しい。そして何よりずっと舞台にいななければならない、つまり休憩がないということです。セリフこそ少ないものの、音もたてられず、飲み物も飲めず、同じ劇をずっと見ていることしかできない。これが一番劇の中で辛かった。普通ならこんな事できなかったはず。なぜできたか。それはひとえにあの演劇が素晴らしかったから。いかにして人が鬼になり、鬼から人に戻れたのか。本当にすごかった。見ていて何度か泣きそうになりました。演じる側なのに。

さて、ここまでで約 1100 文字。頑張りました。そろそろ締めに行こうと思います。私が四苦八苦して書いている 1200 字というのは原稿用紙 3 枚分です。一方、劇のモデルとなった土屋さんは原稿用紙 5000 枚分も書いたそう。5000 × 400 = 2000000 字。文字通り桁違いですね。やはりそれだけの体験だということでしょう。それを演劇という素材で伝えようとする京浜協同劇団はやっぱりすごいです。それに参加させていただいて本当に光栄です。また参加できるならしたいです。

身の上話のみで申し訳ないです。協力出演と言いな



米の飯だ、銀シャリだ

がら協力どころか足を引っ張ってごめんなさい。それでは。
(協力出演者)

「人のあかし 2014」

渡部正一の形象・再び

護柔 一

4月11日初日の朝6時。シャワーを浴びて身体を清めた。

稽古で積み上げてきたものを観客の前に晒す緊張感を少しでも抑えようとした行動だった。土屋芳雄さんの壮絶な生涯をたった2時間に凝縮して演じるなんて全く自信がない。確かに40年間演劇を続けてきたという自負は心の何処かにあって「経験があるじゃないか」と悪魔の甘い囁きも耳元に聞こえていた。そして……幕が開いた。

1年半前の初演では山形出身ということで、言葉の訛だけをお守りにして勢いで舞台に立った気がしていた。今回は上っ面だけを装う演技は通用しない、実在した人物を演じるには相応の覚悟が必要だ。土屋さんが残した多くの記録や手記を読み、証言する土屋さんの映像を脳裏に描き、イメージーションを膨らませ、人間・渡部に近づく作業が始まった。鉄道の仕事をしていた親父、息子芳雄の通信簿が間違いじゃないかと学校に抗議に行った母。謝るだけの親父を鉄道仕事の帰路で待っていた土屋少年、大酒飲みの爺さまの胡坐



一番待たれていたのは自発的な供述



に抱かれ可愛がられて育った幼年時代……改めて読み返した。軍国少年がやがて憲兵少尉になっていく仕掛けが見えてきた。

幼かった頃の自分を重ね合わせ、父母や祖父母の顔を記憶の中から引っ張り出し、母の声を思い出し、小柄な禪姿のオヤジを脳裏に描き、幼かった頃の弟妹同級生の顔を思い浮かべた。朧げに浮かぶ顔、顔、声、声。少しずつ甦らせた。

私の創造はいつも自分の体験を頭の中で再現することから始める。演垂れ小僧が妹をおんぶして小学校に通ったり、農繁期に大人たちと一緒に仕事をしたり……でも似ていたのは小学校の卒業式で答辞を読んだ時点まで。その先を、渡部正一を創造することが俳優のしごと。全く違う人生を舞台で生きる方法は誰も教えてくれない。試行錯誤を繰り返し何回もVTRを見て話し方を真似たり、泣き崩れる様を模写したり……観客は決してモノ真似では納得はしないだろう。土屋さんがどうしても証言しなければ考えたその根底に何が合ったのか？ それをしっかりと捉まえて伝えることを課題にしよう。それがようやく辿りついた私なりの結論だった。

出征、憲兵、シベリヤ抑留、そして戦犯管理所での6年。土屋さんが辿った人生、帰国した時に何を思ったのか？「自分のような鬼にだけはなるな」と伝えたかったのは天皇や戦犯が何の反省もせずこの国を動かしていることに対する大きな憤りではなかったか。敗戦から半世紀を経て何も変わっていないこの国と、私たち自身へのメッセージではないか。

1987年9月(みちのく自由新聞9号)に書かれた土屋さんの手記(撫順の奇蹟を受け継ぐ会岩手支部HPより)の中に大きな手がかりがあった。27年前に書いた土屋さんの思いを、現在の自分の思いと重ね合わせ渡部正一の姿を鮮明に描くことに挑戦した。

今回の公演<証言劇>には多くの観客が参加し「涙が止まらなかった」「もっと若い人にも観てほしい」と嬉しい反応がたくさん寄せられた。受け継ぐ会の松山さんの言葉「これまで証言集会を重ねてきたが、伝える事の難しさを感じていた。演劇の力は素晴らしい、生きた戦犯たちの姿を再現してくれたことに感謝している(という内容だったと思います)」は劇団に大きな励ましを与えた。感謝したいのは私達のほうだ。観て下さった全ての人に心から感謝申し上げたい。ありがとうございました。(劇団員)



震災から4年目

丹野 卓

震災から4年目、現在住んでいる石巻は3年前の震災当時に比べると、少しずつではあるが復興が進んでいるように思います。

ただ、被害が大きかった石巻は、他市、他町に比べ復興がまだまだ遅れています。被害が大きい分、なかなか進んでいないのが現状です。時々、車で海岸通りを走ると、震災前には見えなかった海がすぐ近くに見える状態です。

内陸のほうでは、土地造成が少しずつではあるが進んでいます。私の住んでいる地域では今も仮設入居を余儀なくされている方が多くいます。その中でも一步踏み出した方や、自力で家を建設する方もいれば、仮設から出られないでいる人も多く見られます。

少しずつではあるが、復興の兆しが見えてきていると思いますが、早い復興住宅の完成と、申込者全員の入居ができるようにと思っています。

私の住んでいる所にも津波が来ましたが、自宅は床下浸水ですみましたが、近所では津波に流された方や、家はもちろん多くの方が犠牲になりました。

私自身も一步間違えば、津波にのまれていたと思うとぞっとします。また妻は内陸のほうで仕事をしていてお互いに命びろいしたことで、大事な命を大切にしながら、毎日を過ごそうと思っています。

(石巻在住/文化の仲間会員)

被災地および福島第一原発訪問記

事故から何を学びどう生きるか

by-J

東京電力福島第一原発事故から3年。日本記者クラブの粘り強い交渉が実を結び、加盟報道機関の記者70人による現地入りを実現した。これまで原発の事故現場はNHKなど一部を除いて取材はできていなかったのだが、惨事から3年にしてようやく“一般”の目に触れることとなった。

合同取材に先立ち、原発の周辺地域を独自取材するため前日より福島入りした。まずはいわき市の中央台高久応急仮設住宅を訪れる。ここには広野町や楡葉町などから避難してきた230世帯、約600人が生活している。早朝、散歩途中の60代の女性は「もう疲れた。そろそろ関東に住む娘夫婦の家に転がり込もうかと思う」と話してくれた。ほか数人に声を掛けたが、みな「疲れた」「くたびれた」という言葉を共通して発していた。避難生活が限界ラインに達している証左だろう。被災者の住宅問題は各自治体のレベルを超える。国の本気の施策が求められるが、原発を海外に売り歩く現政権に望んでも詮無きことか。

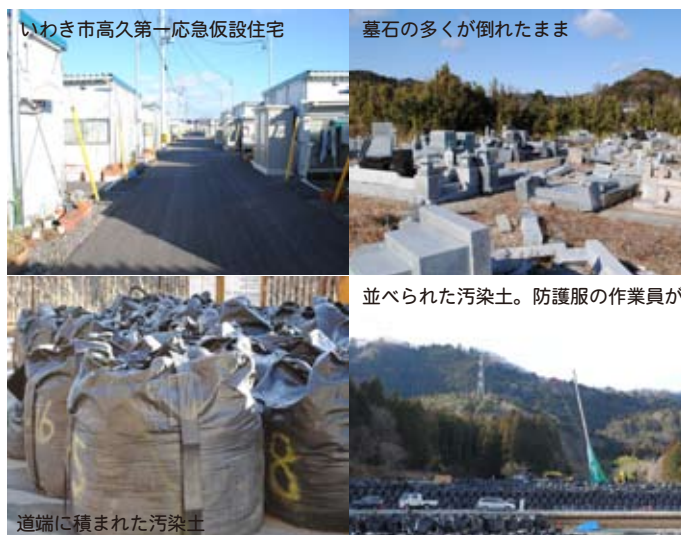
車で北上する。海沿いには津波被害の傷跡がそこかしこに残っていた。住宅地は建物がさらわれたままにガラス破片が散乱し、学校の体育館は骨組みだけが残り、墓地の墓石は多くが倒れたままだ。

ボランティア団体が運営するコミュニティセンターに寄ってみる。被災して家を流されたという男性2人がお茶を飲んでいて。被災時の状況を聞いた後、「もっとも必要としたものは何か」と、ありきたりの質問をすると2人とも「ラジオ」と口を揃えた。「情報がないと恐怖感が増すんだよ」と、よそ者にはとてつもなく聞きにくい福島弁で教えてくれた。

さらに北上し、広野町、富岡町を抜け、大熊町に入ったとたん、直径1メートルほどの黒い袋の列を見た。初めて目にする汚染土だ。よく「背筋がぞっとする」という陳腐な表現があるが、まさにその一言に尽きた。なんとか1枚だけ写真を撮り、急いで走り去った。本当に怖いと思えるものに久しぶりに出合った。

原発事故の汚染土の処理は除染特別措置法で事業者の負担が定められている。だが、廃炉関連費用も含めると全ての処理には10兆円以上が必要とされ、政府はこれを税金で賄う考えを示している。国民は復興特別所得税を25年間にわたり納めていくが、法人に関しては早々に廃止された。復興関連費が税務署の補修工事に使われていたという事実も明らかになっている。明らかにお金の使い方が間違っている。

翌日、記者ら34人が大型バスに乗り、福島第一原発に向かった。1年にわたる交渉の末に実現した念願の取材だが、東電側による制約は多い。撮影は写真・ビデオともに1社ずつに限定され、ほかの記者は携帯



電話の持ち込みも禁じられた。さらに、代表撮影についても建屋の入口やフェンスなどは撮影不可とされ、取材後には撮影したスチールやムービーのチェックまで受けた。東電担当者曰く「テロ対策」とのことだ。この言葉が絶対優先用語として扱われるようになったのは何年くらい前からだろうか。

そして、福島第一では記者らはバス内からの見学にとどめられ、下車することは許されなかった（午後の福島第二では歩いて取材できた）。バス内とはいえ、放射線の量は外部とさほど変わらない。通常の生活で人間が年間に浴びる放射線量は世界平均で0.7mSv（ミリシーベルト）といわれるが、福島第一ではメインゲートですでに毎時12 μ Sv（マイクロシーベルト。1mSv = 1000 μ Sv）、使用済燃料を取り出している最中の4号機近くでは20 μ Sv、そして爆発を起こした3号機の前では630 μ Svにまで跳ね上がった。人間は500mSvでリンパ球が減少しはじめ、2000mSvでは5人に1人が死に至る。1時間に630 μ Svということは、1年間浴び続ければ5500mSvを超える。単純計算ではあるが、凄まじい現実が目前にあるのは確かだ。日頃、いかに現場に近づくかを求め考えているものの、ここでは一瞬でも早くバスが行き過ぎることを願った。見えない恐怖に包まれた。

帰途、住民が避難したため真っ暗な道をいわき駅に向かった。道々に民家は残っているものの、誰も住んでいないし、今後も住むことはないだろう。

政府は2月、エネルギー基本計画の政府原案をまとめ、安定電源を意味する「ベースロード電源」に原子力発電を組み入れた。太陽光や石油エネルギーに比べて格安というのが理由の一つだが、原発事故を教訓とすべきエネルギー政策の基本方針が、いつの間にかコスト判断になっているのは愚かなことだ。

日本人は今回の原発事故から何を学び、これからどう生きていくのか。「ひとつになるうニッポン」などというスローガンで思考停止することなく、主体的に一人ひとりが考えなくてはならない喫緊の課題だ。

(文化の仲間会員)

(編集部から：事情により、匿名とさせていただきます)

批評精神は苦しみからではなくて愉しみの中でこそ育つ

安達 元彦

ことさら京浜協同劇団だけから教わったというわけでもないのですが、「遊び」に対する現在のぼくの考え方も、自分としてはやはり劇団の影響なしにはないという気がしています。

細田寿郎さんは何かの催しに際したときなど「こうすれば遊びになるじゃないか」「それじゃ遊びにならないじゃないか」とよく言います。故中沢研郎さんの「革命とは命懸けの遊びだあ！」という名言。

そして、故山口あきおさん。職場とお芝居の二重生活（まあ、これは劇団員みな同じ。家事を加えれば三重？）。加えて、勤めていた小さな運送会社で新たに組合を作ります。当然リーダー。今度は宮里隆太郎さんの門を叩いてアルト・サクソフォーンを始める。未だそれがロクな演奏もできないうちから劇団員を語らって「シャリバリ」という名の（由来を訊けませんでしたが、ひょっとしてフランス 19 世紀反体制風刺新聞 Le Charivari から？）バンドを結成してやりまくり。ある時、ヤマちゃん（そう呼んでいました）は劇団の新人教育を担当。その卒業公演台本は毛筆による自筆の手書き。買って来た本をコピーすれば簡単に済むのに（当時、ワープロもパソコンもなかったと思う）。

ぼくから見ると、ヤマちゃんは全身かけてめいっぱい遊び惚けて短い生涯を駆け抜けたようにうつります。「おもしろきこともなき世をおもしろく（高杉晋作）」——まるでこの人の句（碑ができれば刻んであげる）。

現在ぼくは「遊び」とは知情意を総動員し肉体の運動もともなって全人格を懸けた人間の最高レベルの活動状態の謂いだと思っています。ひとことで言えば、思わず知らず夢中になってしまうこと。無償の行為。どんなゴホウビ（見返り）も要らない。ゴホウビとは？ おやつ・お小遣い・いい学校への進学・いい会社への就職・いい給料・出世・いいヨメさん・いい住宅・老後の保障・社会的地位や褒賞・権威筋やイデオログによる賞賛・歴史の評価——そんなもんいら

ん。ほめられたくてやってるんじゃない。けなされてもやる。禁じられてもやめへん！

ぼくの理想社会のイメージは、だから、全世界の人の全時間が遊びで満たされること。この遠い星（何億光年先？）へ向かって一歩でも半歩でも爪先コンマ××ミリでも近づこうとすることが日々の営み。だがそれは耐え難きを耐えての苦行によってではない。反対に、理想社会の雛形を作ってみること。「人同士一緒に生きることがこんなだったらどんなにいいかなあ！」という状態を、どんなにささやかでも、一瞬でもいいからシミュレートしてみる。フィクション。バーチャルリアリティですね。そして、ここで得た実感をもとに実際の世間を振り返ってみるとき、ホントの主体的批評精神は培われると思っています。批評精神は苦しみからではなくて愉しみの中でこそ育つと思う。

ぼくの場合、たとえばみんなで歌をうたうとき、正統的な合唱のセオリーで「こうしなくてはいけない」「こんなことやっちゃいけない」でがんじがらめにしてやったら、実際の世間とおんなじじゃないですか。世間では許されないことをやることにこそ真骨頂はあるのです。

とは言え「……のために」「……ねばならぬ」は、やはり辛いことですねえ。



1994年（写真：©長坂クニヒロ）

劇団は一般社団法人になります

京浜協同劇団 城谷 護

—こんど社団法人になるそうですね。

はい、近く法人化が認可される予定です。それが決まると劇団の正式名称は「一般社団法人 京浜協同劇団」となります。今まで劇団はあくまで任意に組織された団体にすぎませんでしたが、これからは法的に認められる法人団体となるわけです。

—なぜ、法人化するのですか？

二つの理由があります。一つは劇団の社会的信用を高める必要があること、もう一つは劇団が法人ではないため稽古場という財産が前劇団代表者の個人名になっており、これは劇団名義に変えて置く必要があるためです。

—一般社団法人とはどんな法人ですか？

国の法律「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」(2006年成立)に基づいて定められた非営利法人です。非営利活動を行っている任意団体が法人化を目指す場合、一般社団法人、一般財団法人、NPO法人の3つがありますが、私たちはそのうちの一般社団法人を選んだものです。

—NPO法人のほうが一般的で馴染みやすいと思うのですが…

私たちもそう思って実は3年前からNPO法人化の準備をしてきたのですが、稽古場を持つ私たちの劇団としては不都合なことがわかってきたのでNPOを断念したのです。それは、もしも劇団を解散するとき、

財産を全部自治体や公共団体に寄付しなければならないからです。

私たちの稽古場は自治体から1円の助成金もいただいておらず、市民・観客からのカンパ4,500万円と自分たちで出した資金の合計1億6,500万円をかけて建設したのです。それなのに無条件で供出しなければならないというのは納得できなかったからです。私たちの稽古場は市民の財産なのです。守る責任があります。

—一般社団法人になるメリットは？

設立手続きが登記のみなので迅速に設立できること、行政庁の監督がなく報告義務もないこと、税制の優遇措置の可能性もあるなどの利点が挙げられます。

逆にデメリットとしては会費を除き収入について課税される、行政庁の許認可や監督がないため社会的信用が得られにくいということが挙げられます。

—もう手続きは終わったのですか？

定款は公証役場で受理されました。今は稽古場財産を個人名義から社団法人名義に書き換える手続きにかかっており、それが完了する今年6月中には法人として発足します。

この法人化に際しては、「文化の仲間」の山木健介事務局長の豊富な知識とご尽力がなければ実現しませんでした。感謝します。

え！…本当に逝ってしまったのですか。

川崎市民劇場 元事務局長 関 昭三

水野哲夫さんの死は、私にとってあまりにもあっけない別れとなりました。

50周年を迎えた川崎文化会議が、その記念に「川崎市の文化史年表」を創ろうと検討し準備していたその中心の1人が水野さんでした。11月に入って体調を崩し入退院を繰り返さなければならなくなっても、暮れには新年の編集会議には参加したいというメールもあり、文化会議の第二の時期一田島紳さんが議長を務めた時期一の活動のまとめをお願いしていたのです。まさか逝ってしまうなんて思いもよらなかったのです。

水野さんと本格的な付き合いが始まったのは、川崎市民劇場(京浜労演)の草創期、初代事務局長・平木美那子さんが病気で倒れ、二代目委員長・河田良二さんが不慮の事故に遭って亡くなり、事務局長になったばかりで頼りない私を支える三代目委員長として劇団から派遣されてきたのです。

給与も十分出せなかった事務局員に対して一時金が出るとカンパを集め手当しながら必ず食事(あの「カニ道楽」の食事は忘れられない)に誘ってくれました。会議では、時には融通のきかない頑固な発言でみんなを困惑させながらも、何故か、後年、「水野さんの還暦を祝う集い」を開くほどに、みんなから好かれていたのです。

市民劇場は文化会議の事務局だったこともあり文化関係者のたまり場でした。黒沢参吉議長が亡くなって以後、京浜協同劇団と文化会議をつなぐ要として活躍し、特に文化行政の分析と提言活動が、自分の役割として活躍してきたのです。

昨年川崎郷土・市民劇「大いなる家族」では、舞台にあの少しかすれただみ声を響かせていた水野さん。来年は、いよいよ正念場となる5回目を迎え、小川信夫さんが長く抱き続けてきた「佐藤惣之助」の舞台を実現します。水野さんが制作にいないことがまだ実感できません。向こうからいいから、成功に向けた力を貸してください。

本当にいろいろとありがとうございました。そしてお疲れ様でした。 合掌



◎文化の仲間通信◎

◆第8回 友野龍士わくわく和太鼓コンサート

龍笑う！

日程 5月25日(日) 15:30開演(開場15:00)
会場 神奈川県立青少年センター(桜木町徒歩10分)
入場料 一般3,000円 小・中・高・障がい者1,500円
(全席指定)

出演 友野龍士・栗原晋太郎(サククス)・河本奏輔
(ベースギター)・Winter Spencer(パーカッション)・
伊地知潔(ドラム)・宮下広輔(ペダルスチールギ
ター) ほか

問合せ・申込み 友野 090-9380-6964

◆川崎市核兵器廃絶平和都市宣言 32周年記念

平和をきづく市民のつどい

日程 6月8日(日) 10:00~15:30
会場 川崎市平和館(川崎市中原平和公園内)
参加費 入場無料

午前の部 大型紙芝居・ゴローちゃんと子ども腹話術・
合唱団いちばん星・KMC ブラスバンド ほか
午後の部 参加団体アピール・朗読 麻の実 ほか
記念講演 「秘密保護法と憲法」 穂積匡史弁護士

問合せ 事務局 田辺 044-766-0550

◆弾談の会びあ〜の例会

〈うた・ひとびと・ピアノソング〉

日程 6月8日(日) 11:45~13:30
会場 名曲喫茶ミニヨン(荻窪駅南口徒歩3分)
参加費 2,000円(飲物付)
ピアノ 鈴木たか子
ゲスト 岡田京子(作曲家・アコーディオン奏者)
曲目 岡田京子作品(ふるさと・筑豊の子守唄 ほか)
／ビクトル・ハラのうたによるピアノソング

問合せ・申込み 鈴木 03-3383-0697

◆川崎市民劇場第320回例会

劇団東演公演 ハムレット

日程・会場
さいわい市民劇場 6月21日(土) 16:00 幸市民館
なかはら市民劇場 23日(月) 18:00
24日(火) 13:30 エポック中原
たま・あさお市民劇場 6月30日(月) 18:30
多摩市民館

作 W.シェークスピア／演出 V.ベリヤーコヴィツ
チ／出演 南保大樹・M.ドラチャーニン・笹山栄
一 ほか

腹の底に響くような音楽、独特の照明、客席に強く
語りかける俳優たち。“光と闇の魔術師”の手によっ
て醸しだされるスピード感溢れた『ハムレット』。

申込み・問合せ たま・あさお市民劇場 044-911-6920

なかはら市民劇場 044-455-7950

さいわい市民劇場 044-244-7481

◆山寺圭子 うた・唄・歌 vol.28 海に…

ソプラノ 山寺圭子 ピアノ 朝岡真木子
日程 6月23日(月) 19:00
会場 めぐるパーシモンホール(小ホール)
入場料 A 4,000円 B 3,500円
曲目 浜辺の唄・城ヶ島の雨・君が青い瞳に・樹木の
陰で・風よふるさとよ ほか
問合せ・申込み 山寺 044-511-8995

●京浜協同劇団が福島へ芝居で激励に行きます

劇団は、8月29日から3日間、福島市で行われる
全日本演劇フェスティバルに、芝居を持って参加しま
す。上演作品は、篠原久美子作のドラマリーディング
「空の村号」、和田庸子演出で行う予定です。

フェスティバルは、被災地激励を目的に4つの劇団
が出演するほか、被災地見学のツアーも組まれていま
す。京浜協同劇団からはスタッフ・キャスト合わせて
十数人が参加予定です。

フェスティバルの観劇ツアーに参加されたい方は劇
団までお問い合わせください。

●NHK テレビで放映されることに

NHK テレビが川崎特集をすることになり、京浜協
同劇団と「人のあかし」が取り上げられることになり
ました。日程などは下記のとおりです。

日程 5月23日(金) 21:00~22:00
チャンネル NHK テレビ BSプレミアム
番組名 新日本風土記

■文化の仲間ギャラリー■

小野寺 晃⑬

